

## 市場と技術の共鳴

### Resonance between Market and Technology



山本 節雄  
YAMAMOTO Setsuo

技術革新とは、市場と技術の共鳴現象であると考えています。技術は、技術革新のもっとも重要な要素ではありますが、それだけでは不十分であり、市場の要求に合致し、共鳴を起こしたときに、初めてわれわれの生活を変え、文化、社会までを変革する力になると考えられます。そのような意味において、ロボットは技術革新の可能性を秘めた存在であることはまちがいないでしょう。

本田技研工業(株)の“ASIMO”に代表される人間型ロボットや、ソニー(株)の“AIBO”に代表されるペットロボットに対するマスメディアや一般の人々の反応は、非常にポジティブであり、技術革新に対する期待感が一気に高まっています。生活の中で身近に働くロボットに対する夢と期待、ロボット＝鉄腕アトム＝正義のみかたと刷り込まれている日本人に特有な現象かもしれませんが、少なくとも日本では、家庭や社会生活の中にロボットが受け入れられる可能性が高いことを示唆しています。これから少子高齢化が急速に進む日本の社会を考えると、医療、福祉、介護といった分野におけるロボットと人間の関係を十分に議論すべきときであると考えています。

一方、技術的には、例えば、現在の人間型ロボットは単に二本の足で歩行できるレベルであり、市場が期待する夢の技術との乖離(かいり)は大きいと言わざるをえません。社会と生活を支えるロボットを実現するためには、開発しなければならない多くの基盤要素技術が残されています。市場との共鳴を誘起し、適正な価格のロボットが提供されるためには、オープンな標準アーキテクチャの構築と、それに基づくロボットのシステム設計技術の開発が必要であると考えています。また、音声による対話技術や、視覚、触覚の実現は、ロボットが人間の生活空間の中に受け入れられるために不可欠なコミュニケーション技術です。更には、これらの技術をベースに、ロボットが自分の置かれた環境を理解し、相手となる人間を理解する人工知能を獲得するためには、大きな技術的ブレークスルーがなければならないと考えています。

当社は、来るべき少子高齢化社会の生活を豊かにするために、上記のような研究・開発を推進し、市場と共鳴するロボットを提案していきます。